

# 地域を創る人

## 後志編

05 田中 良さん

### 真狩村を まっかりむら 横のりス。ポーツの聖地に



「ガレージスケートパーク&ショップ BIGCAT」オーナー。平成26年7月から3年間真狩村地域おこし協力隊として活躍。

真狩村地域おこし協力隊員として3年間の活動を終え、10月に真狩村豊川地区に「ガレージスケートパーク&ショップBIGCAT」（室内スケートボード施設）をオープンした田中さん。新潟出身の29歳で、アマチュアのスノーボード選手として活躍した経歴を持っていきます。

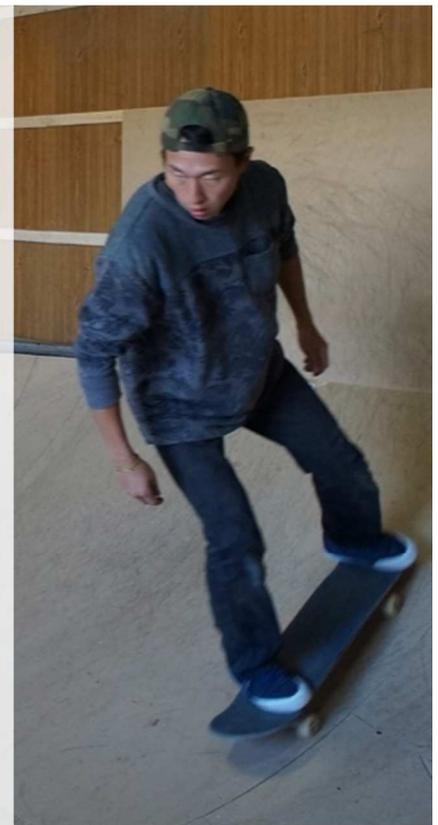
田中さんは、選手時代に毎シーズンのように遠征や大会などで二セコに来ており、25歳で選手を引退した際に、このまま北海道で暮らしてみたいと強く想い、農家での仕事を紹介してもらったことが移住するきっかけとなったといいます。

その後、真狩村で募集している地域おこし協力隊になり、主に羊蹄山自然公園の活性化を担当。ホームページを開設したり、子ども向けに森を楽しむ企画を定期開催したり、また、特技のスノーボードを活かしたミニランプ（練

習場）をキャンプ場内に設置し、スケボーが身近に楽しめる環境を整備しました。

自然の良さを体感してほしいと立ち上げた「キャンプフェス」は、音楽や食、キャンプの魅力など、村内外の方にPRすることにも力を入れました。「最初は、段取りが分かっていなかったため苦労もありましたが、仲間や役場の方、地域の方も協力してくれたおかげでイベントは成功。周りの応援が原動力となった」と話します。

そんな経験が起業への足がかりとなったのか、村の創業支援事業を活用した室内施設を建設することになりました。「スケボー」というと、街中で見かけるイメージはマナーの悪いスポーツと思われる方が多いのが現実。でもマナーをしっかり守って遊べば迷惑



もかけず、体幹トレーニングやバランス感覚も養われるメリットもある。スケボーに対する理解と仲間が増えるとうれしいですね」  
「今後はお店を拠点として定期的に子どもや若者を対象にしたレッスンをや大会の開催、スケボー用品の販売などに力を入れて、将来は、真狩村が『横のりス。ポーツの聖地』となるように頑張りたい」と語ってくれました。



▲「ガレージスケートパーク & ショップ BIGCAT」の店内の様子

# 地域を創る人

留萌編

06 佐古 大さん

初山別しよさんべつで「楽しく」

「続けて」「繋がる」

「そのアンタ。このまま都会で埋もれるなんてたましいんでないの？」

出身地の北海道へいつかは戻りたいと思っていた中、この初山別村地域おこし協力隊の募集広告文を電車で内見かけたのがきっかけで、平成26年4月に地域おこし協力隊の一員となった佐古さん。

募集広告を見たときに地域おこしのスキルに自信があった訳ではありませんが、協力隊に採用される前は、10年間、会社勤めをしており、「サラリーマンとして身につけた経験を活かして、自分から提案しながら地域のために何かできることがあるのではないか」という思いがこみ上げてきたと話します。

協力隊の活動で印象的な取組は、地元住民との話し合いを進めながら、活用方策を模索中の廃校を1週間限定で活用した「豊岬廃校活用プロジェクト」です。カフェや

絵画・写真の展示、ハンドメイド雑貨や地元の野菜の販売、ミニコンサートなどを行い大盛況となりました。

また、百余年の歴史が一旦途絶え平成26年に復活を果たした村唯一の無形文化財「有明獅子舞」の継承にも携わり、村内だけでなく、村外の方とも一緒に伝統芸能を守るべく活動を行っています。

「やってみよう」「皆で楽しもう」という思いを大切に、廃校活用も有明獅子舞の継承も、新たな交流を生み、その後も住民の手で続いていることが何よりも嬉しいといっています。

3年間の協力隊任期の最終年には、任期終了後の地域活性化と定住を見据え、「一般社団法人マッチワークス」を設立しました。も

ともあった村の施設を改修し、高齢者から子供までがふらつと立ち寄り、人と人がつながる場所となるよう名付けた多世代交流拠点施設の「繋小屋（つなごや）」でコミュニティカフェを運営するほか、村からの受託事業である自学塾の運営にも取り組んでおり、地域に必要とされるサービスをビジネス化、生業化できるような模索しています。

協力隊を卒業した今年の春からは、もち米農家として地域農業の担い手の一員に加われるよう、就農活動も始めました。現在は農家と法人代表を兼務する多忙な毎日。佐古さんの移住が地域に好循環をもたらし、村や今後の協力隊員にとってお手本の1つとなるよう期待が高まっています。



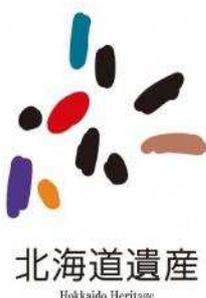
「一般社団法人マッチワークス」代表。平成26年4月から3年間初山別村地域おこし協力隊として活躍。



▶「豊岬廃校活用プロジェクト」の様子



▲「繋小屋」内のコミュニティカフェ



守りたい・育てたい・活かしたい

未来へつなぐ  
北海道遺産、  
募集します。

第3回選定候補募集中

「北海道遺産」は、次の世代に引き継ぎたい北海道の大切な宝物。過去2回の選定により、現在52件の北海道遺産が定められ、遺産の保全・活用の取り組みが進められてきました。1997年の構想スタートから20年、2回目の選定から13年。北海道遺産は、新たな物語の発掘を始めます。北海道にとって価値ある遺産を、担う人の熱い思いを、将来に向けてのアクションプランを。道民が誇りに思う北海道の大切な輝きを、未来へ継いでください。

**申請** 2017年**12**月～2018年**3**月**30**日(金)

**決定・公表** 2018年8月(予定)

**申請資格** 申請する遺産候補の保全・活用に主体的に関わることができる団体(市民団体・企業・自治体等)※所有者以外が申請を行う場合は所有者の許可が得られていること

**申請方法** 申請書類に必要事項を記載のうえ、NPO法人北海道遺産協議会事務局へ提出してください

◎連絡・問い合わせ先  
**NPO法人北海道遺産協議会**  
〒060-0041 札幌市中央区大通東2丁目第36桂和ビル7階  
TEL 011-218-2858 FAX 011-232-4918 (平日10:00~17:00)  
E-mail info@hokkaidoisan.org URL http://www.hokkaidoisan.org



2018年は北海道150年  
Hokkaido's 150th Anniversary  
北海道遺産第3回選定は  
北海道150年事業の一つです

バックナンバーは、創るWEBで

北海道創生ジャーナル

検索



URL : <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/csr/chicho/tsukuru/toppage.htm>